

ポブベっくのやさしい投資信託

第17回 特殊な債券に投資するファンド その1

前回までは為替のリスクに焦点を当てて外債ファンドを解説しました。しかし、購入する債券の詳細には全く触れずに話を進めてきました。何故なら、購入する債券としては国債を想定していたからです。先進国の発行する国債だから、デフォルト(元本の返済や利払いが滞ること)は無いだろうという前提をおいていたわけです。しかし、世界中には様々な種類の債券があります。そして、デフォルトのリスクや、それ以外のリスクを取ることで、国債よりも魅力的な利回りを得る事が出来るのです。今回からは、そういった特殊な債券に投資するファンドについて、解説していきます。

(6-D)特殊な債券に投資するファンド

(a)ハイイールドファンド

ハイイールドファンドとはハイイールド債を購入するファンドです。ハイイールド債というと、何となく魅力的な債券といったイメージを持つかもしれませんが、要するにジャンク債のことなのです。ジャンクとは「くず」とか「価値のない」、「がらくたの」といった意味です。よく「ジャンクフード」という言葉を耳にするとと思います。

債券の場合にジャンク債というのは格付け機関が投資不適格(デフォルトの可能性が高い)といったお墨付き(?)を与えた債券の事を指します。つまり、利子が支払われなかったり、元本が返ってこなかったりする可能性が高い債券なのです。それだけリスクがあるのですから、当然利回りも高くなるのです。

企業の発行するハイイールド債の値段の動き方は、株価に似ています。つまり、金利の動きよりも、その企業の業績や景気動向によって、価格が変動するのです。景気が良くなったり、その会社の業績が良くなると、デフォルトの可能性は小さくなり

ますから、債券の魅力が増すという事は自ずと理解できるでしょう。

格付について

山一証券が自主廃業して以来、『格付』という言葉が頻りに登場するようになりました。しかし、格付といっても、「債券の格付」、「株式の格付」、「投信の格付」と様々な種類があります。そしてこれらの「格付」は、その意味、使い方、発表している会社が全く違うのです。そこで、「格付」について簡単に解説しておきましょう

債券の格付

債券の格付は、「デフォルトの可能性」、分かりやすく言うと、元利が予定通りに支払われない可能性を表しています。この格付けを発表しているのは、R & I、J C R、Moody's、S & Pなどの格付機関です。一般的には下表のような格付けがつけられ、債券の安全度を投資家に示しています。

格付け	読み方
A A A	トリプルエー
A A	ダブルエー
A	シングルエー
B B B	トリプルビー
B B	ダブルビー
B	シングルビー
C C C	トリプルシー

A A Aが一番安全性が高く、下に行くほど債券の安全性は低くなります。格付機関によっては、Aaa というような表記をしていますが、その意味はほぼ同じです。そして**B B B以上が投資適格**(安全性が高い)、**B B以下が投資不適格**、つまりハイ・イールド債(ジャンク債)に分類されます。ただ、これはあくまでも、各格付機関の意見です。同じ会社の格付でも、格付機関によって全く違うことも多いので、一つの格付機関の格付だけで判断しないことが重要です。

株式の格付

株式の格付は株式の投資判断を示すために使われます。つまり、証券会社のアナリストが会社の価値を分析し、株価が上がるとするか下がるとするかを、数字やローマ字で表しているのです。あくまでも株価動向を予想したものですから、良い会社でも

割高だと思えば格付は低くなるのです。

投信の格付

モーニングスターやS & Pアイフィスといった投信評価機関は、**投信の過去の成績**をもとに格付を行っています。評価機関によってスタンスは違いますが、基本的には、リスクとリターンを関係を数値化し、それに基づいたランク付になっています。投信評価機関の格付けに関しては後日、詳しく解説する機会を設ける予定ですので、お楽しみに。